

平成十七年の新春 あけまして おめでとうございます。



西栗倉村長 道上 正寿

昨年は半世紀に一回も経験しない大きな台風が4回も上陸し西栗倉にも大きな被害をもたらしました。特に台風23号による風倒木の被害は県下で約5,500ヘクタールに及び被害総額は数十億円といわれて、非常に厳しい山林状況も重なって農家の心に大きなダメージを与えました。激甚災害指定も含めて一日も早い復旧に全力で当たりたいと思います。17年が村民の皆様全員が健康で平穏な一年でありますように願わずにはいられません。

二年間に渡っての合併議論、住民

の皆さんの総意も含めて今回は合併しないを選択させていただきました。

繰り返し述べてきました「戦後の50年と21世紀の50年が同じシステム同じサービスとは考えられないこと」

も事実です。しかしながら合併協議会での議論、三位一体改革等国の方

向付けを冷静に考えれば考えるほど、西栗倉のような中山間地域の明るい

将来が展望できません。自治体はもちろん農協、森林、郵便局、商工会

そして各学校の存続すら怪しくなり、同時にほとんどの雇用の機会がなくな

ります。地域社会は効率や規模の原理だけでは成り立ちません。これ

からは地域全体のコスト低減に限りなく挑戦し続けて、限られた財源で

自治と執行権を持った地域解決型の小さな行政こそが持続可能な西栗倉

の方向だと確信しています。

さて高速道路姫島線が国土交通省の新直轄に変わり平成20年前後には

鳥取市まで開通の予定です。智頭急行も含めて利便性が飛躍的に広がり我々の生活環境が一変し唯一明るい将来が模索可能です。もともと行政は岡山県で経済は関西圏です。光ファイバー対策も含めて地域の雇用対策、定住対策を政策の重点課題として、将来を睨んで雇用対策担当を配置していくつもりです。

次に持続可能な中長期の財政計画です。国と地方を合わせた起債残高は700兆円を超えて、さらに社会保障費の増加が続いています。国の三位一体改革、税財源の弱い過疎地域の交付税の調整機能の方向付け等を冷静に判断して「住民に何が必要で何が不要か」という「集中と選択」を明確にして政策、行政サービス、各種補助金にメリハリをつけることが課題です。総予算規模の縮小は避けられない状況下で、さらに行財政改革を進めて5、10年の中期で予算規模が70%前後に激減しても持続可能な組織の在り方及び体質改善を提案していきます。

保健、医療、介護、年金等の社会保障費の議論が盛んです。2020年には日本全体で25%前後に高齢化が進みます。抜本的な方向付け、解決策を提案してもらいたいものです。幸いに西栗倉では保健、医療、介護、

福祉の一体的な取り組みの成果で住民の満足度は高いと確信しています。子育て支援も最重要課題です。地域社会での学校教育の在り方、通学の問題も含めて議論を深めながら思い切った解決策を模索することが必要です。

いずれにしろすべての行政課題が前例踏襲では成り立ちません。日本丸の行く末も心配ですが、地域社会の少なくとも自己決定と自己責任が明確になり従来の右肩上がりの成長での舵取りでは対応できません。極めて限られた財源での執行は住民参加と主体的な創造能力、意識改革、コスト意識と経営能力を高めた「人づくり」と「村づくり」がすべてです。

これからも住民の皆様と二人三脚でこの難局を乗り越えていく所存です。これからも沢山のご意見を賜りますように、また色々な事業や催しに積極的な参加をお願い申し上げます。

最後に村民の皆様のご健康とご多幸をご祈念申し上げて新年のご挨拶とさせていただきます。

明けまして

おめでとうございます。



西栗倉村議会議員 青木 秀樹

昨年は色々な意味で大変な年でした。地震、台風、そして五〇年ぶりの合併の嵐とでも申しますか、平穏な日々が突然の不安に襲われるような出来事の多い年だったと思います。つくづく、日頃からの危機管理の大切さを思い知らされた一年でした。

さて、私たちは自主的に合併をせず、西栗倉村という自治体に生活の基盤を置くことに決めたわけですが、もちろんすべてが片づいたわけではありません。国の財政危機の中で、郡内の他の町村が合併する中で

西栗倉だけが単独でこれから先やっていけるのか、と疑問を持たれる人も多いのではないのでしょうか。ごもつとも心配だと思います。しかし、西栗倉村の地域としての使命、役割、そしてこれまでの行政の実績に鑑みて、また心配して下さる多くの皆さんがおられるという（当事者意識が高い）ことに鑑みて、決して後悔のない選択であったと思います。人口の少ない小さな自治体の財政が小規模というのは当たり前のことで、これは仕方ありません。しかし、小規模だから何も出来ないと考えたり、将来破綻するのではと考える事は必ずしも正しいとは言えません。一般的に財政破綻の仕組みは、常に収入を無視した支出構造にあります。現実に自己破産が起こるケースでは、もともと収入が低いという例は圧倒的に少ないのが通例です。なぜなら、無駄遣いをする余裕や、その体質さえなければそれなりに健全性は保て

るからです。

ところで、西栗倉村の地域としての役割は何でしょうか。西栗倉は源流の地です。またその源には豊かな原生の天然林を有し、水資源の涵養や生態系を保持しています。また、山陽と山陰の結節点であり、これまで交流の地として多くの人々の交流に寄与してきました。これからはそういった地域の役割、使命をしっかりと認識し、他の地域のみなさんにその存在を認められ支持される村になる必要があります。

林業がさっぱり振るわない時代となつてしまいましたが、林業はこれからこの村の主産業であり誇りであることに間違いありません。しかし、これも従来どおりにはいかないと考えます。これから注目しなければならぬのは、森林の持つ公益的、多面的な機能だと思います。これまでの林業は用材の多量生産に重点が偏在しすぎたきらいがあります。とても健康な森林といえない山が目立ちます。公益的機能とは、木が大地にしっかりと根を張り、まわりに雑木や下草がはえ、雨水の吸収力が強い自然のダムとして災害をくい止めたり、地球温暖化の主原因とされるCO₂の吸収に優れた能力を発揮する森林特有の機能です。これまで村の

先輩方が長い時間をかけ苦勞して造つてこられた山です。用材として立派に仕上げるのは勿論のこと、山全体の持つ多面的な価値を高めていかなければなりません。さらには美しい健康な森林づくりを始めなければならぬと思っています。その過程では膨大な量の材が発生しますが、それらは新しいエネルギーとして変換することが有望視されています。この研究は、今始まったばかりですが是非今年中には何らかの取り組みが出来るように村執行部に要請しているところであり、期待しているところではあります。然エネルギーや発電によるエネルギーの自給政策なども視野に入れて将来を展望することが可能となれば、幸いです。

本年は、新生西栗倉村の始まりの年であります。村民自らあらゆる立場で改革、改良に取り組み、それぞれの立場で新しいことにチャレンジしていただきたいと思います。正しい努力をする地域、正しい努力をする住民は必ずその成果を地域にもたらすことが出来ると信じています。

西栗倉村のすべての住民のみなさんにとって素晴らしい一年になりますようご祈念を申し上げます。新年のあいさつとします。